在庫管理システム導入事例

エクスポート（オリジナルグッズ製造・販売）横浜市

リアルタイムの在庫管理でロス率改善、販売意識も向上した

横浜ランドマークタワーや赤レンガ倉庫など、横浜に直営4店舗を展開するエクスポート。グラフィックデザイナーの中川憲造社長を中心に開発・販売するオリジナル商品は、知的でユーモアを感じさせる横浜土産として評判が高い。直営店運営のほか、卸や通販、外商も行っている。

以前、店舗の販売管理は、諸事情から2社のPOSシステムを使っていた。いずれも販売数などのデータは翌日集計で、2つのデータを集約する作業が必要だった。また、卸部門の商品管理にはパソコン用の汎用ソフトを使用し、倉庫での日々の入・出庫の記録は手書きだった。全体の在庫把握には数日かかり、業務に支障を来していた。

6、7年前から、店舗と卸業務をトータルで管理できるシステムを探し始め、2007年、アイル（東京都港区、大阪市）の在庫管理システム「アラジンオフィス」と同社の店舗管理システム「POSCM」（ポスカム）を連携させた一元管理システムを導入した。

横浜赤レンガ倉庫1号館1階に店を構える「赤レンガ デポ」

定番商品の横浜チョコレート「赤い靴」。「もの語るモノ」にこだわり開発したオリジナル商品は1200アイテムに上る

業務効率アップ、ロス率改善

本格稼働は08年9月。毎日の商品ごとの入・出庫や在庫数、売上げ、廃棄などのデータがリアルタイムで自動集計される。データを見ることで発注のタイミングが分かるようになり、本部による発注精度が向上。ロス率が約1%下がったという。

週次・月次の経営報告書も、以前はFAXから手入力し、各システムのデータを集約して作成していたが、短時間でできるようになった。

年2回の棚卸しでは、作業時間が大幅に短縮された。以前は元データの信頼性が低く、元データと実数が合わない原因の特定が難しかった。導入後は異常数値を随時発見、修正できるため、整合性が高まった。

さらに、棚卸し結果を約1カ月かけて本部でまとめていたが、今ではボタン一つで集計可能。大幅な業務改善につながった。

販売意識向上も大きな成果

本部の丸山理恵さんは、「ハード面だけでなく、販売スタッフの意識が変わって売場からの提案が生まれるなど、予想していた以上の効果です」と言う。時間帯別売上げ推移、販売数、在庫数、他店の情報などを店舗で常に確認できることで、スタッフがレイアウト変更や店舗間移動を積極的、戦略的に実施するようになったという。

中川社長は、これらのデータを毎日スマートフォンで閲覧している。「日ごろから頻繁に各店舗を見回っているので、データを見れば各店舗の商品の動きが手に取るように分かります。意外な商品がランキング上位にくるなど、日々発見があります。アナログな観察とシステムによるデータ把握を組み合わせることが大切です」と語る。

在庫管理業務の飛躍的向上で、本来の商品開発、販売業務に集中できるようになった。

グラフィックデザイナーの中川憲造社長（左）とシステム担当の丸山理恵さん

企業概要

企業名	㈱エクスポート
代表者	中川憲造
本社	横浜市中区海岸通4-24 万国橋SOKO
設立	1993年3月8日
資本金	8000万円
店舗数	直営4店舗
卸し先	横浜市内百貨店、ホテルショップ、ミュージアムショップなど
年商	約4億円（2009年度実績）
従業員数	30人（パート・アルバイト含む）